



学生の頃習った四字熟語に「朝令暮改」というものがあり、意味は朝出した命令を夕方にはもう

改める事、方針などが絶えず変わって定まらない事(デジタル大辞泉より)とある。では、直前まで不備が指摘されていたながら強行しようとして、自分の失言によって一転、その政策を延期する事を何というのか?▼「急転直下」大学入試に用いられる共通試験に英語民間検定試験を導入しようとしたこの政策、以前から多くの問題点が指摘されながら、政府は教育改革の目玉として導入を急いでいた。そして、まさに受験生のID登録開始が始まるその朝、延期が決定。延期の理由は「自信を持って受験生に薦められるシステムになっていない」との事。いやいや、つい先日まで「『身の丈』に合わせて受験すればよろしいのでは」と発言なさっていたではないですか? この「身の丈」発言、撤回されたものの一度口をついた発言は、そうそう簡単に忘れてしまえるほど私たちは利口ではないし、むしろ撤回したその発言にその本性が潜んでいる▼そしてこの政策の延期は、当事者である受験生や高校、予備校や請け負うはずであった民間企業など、さまざまな方面に多大な影響を与えた事は間違いない。今後、請け負うはずであった民間企業から損害賠償を請求された場合、その賠償金はまた私たちの税金が使われるのであろうか?▼今回の延期の原因は「一にも二にも文科省の責任」とも述べているので、ぜひ今後、その「自己責任」の取り方を私たちは忘れずに注視する必要があります。

(みやき町 今村 洋一)